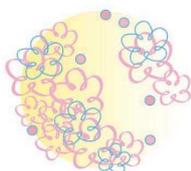


三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344



「精神科長期入院患者への退院支援」

2病棟 看護師長 有明 晶子

当院では、以前より積極的に退院支援に取り組んでおり、入院治療から社会復帰、自立への継続的な支援を行ってきました。現在も、統合失調症を中心とした精神障害をもった方が、自立して社会復帰できることを目標に、入院中からチームアプローチを基本とした退院支援を続けています。また、退院後も在宅生活を支える訪問看護や日中活動の場として通える精神科デイケア・デイナイトケア、社会的自立を目指すグループホーム等を実施し地域生活をサポートしています。さらに、就労支援の核となる「ワークサポートセンター三愛」も建築中です。このように、社会復帰を支援する多様な治療プログラムや事業所の拡充によって、選択肢が増え社会復帰への可能性は大きく広がると考えています。

私が所属する2病棟(精神科療養病棟:女性閉鎖病棟)においても、長期入院の慢性期の患者様を対象に退院支援を行っています。2病棟において長期入院をされている患者様は2つのタイプに分かれます。1つ目は精神症状が不安定な方です。そのような方には精神療法、薬物療法、作業療法で症状を軽減させることが中心となります。2つ目は精神症状は落ち着いているが自宅への受け入れが困難で、退院の目処が立ちにくい方です。そこで、今回後者の方へ向け退院支援を取り組みました。今まで退院に結びつかなかったのは、長期入院により環境の変化に不安があり、少しの変化も嫌う患者様が多いという理由が挙げられます。そのため、患者様が退院後も安心して過ごせる場所を本人、ご家族、主治医、精神保健福祉士、看護師で面談を行いながら協議しました。方針については多職種カンファレンスで検討し、実際に一緒に施設見学を行う等、不安が軽減できるよう努めました。また、受動的な生活に慣れてしまっている患者様が多いことも退院を困難にしている要因です。そのため、自分の事は自分で行うといった「セルフケア」自立への援助に努めました。長年、病院のクリーニングに出していた患者様に対し、洗濯機の使い方、洗濯物の干し方、洗濯物のたたみ方を指導していくと、想像以上に自分一人できちんとできる方がいました。活動

の中で、患者様がどの程度身の回りの事を行えるのか各個人の「セルフケア」能力を見極めて行き、患者様の可能性を信じて挑戦していくことが大切だと改めて感じました。

また、長期入院患者様が社会の大きな変化に順応できないという問題もありました。退院支援を行っていくにあたり、長年入院生活を送ってきた患者様にとって地域に出ることは嬉しい反面、戸惑うことも数多くありました。私たちが日々生活で何気なく行っていることも、閉鎖病棟の患者様にとっては未知の世界であり、病棟内では比較的自立され、しっかりしている印象の患者様でも慣れない光景に出くわすと混乱し、些細なことが出来なくなります。このような困った場面で適切なサポートやアドバイスを行い、成功体験を持ってもらうことで患者様は大きな自信をつけていきます。患者様と一緒に振り返りを行い、出来たことは褒め、出来なかったことに関しては今後どうしたらいいか同じ視線に立って考えていくことが重要です。

退院支援を進めていく中で病棟生活では見せない姿が見られたり、思いもしない問題が出てきたり、今までの病棟内の関わりだけでは患者様の一部の姿しか分からないのだと感じました。患者様がこの先どんな場面で戸惑うのか、どんな問題に直面するのかを知るためにも、看護師も患者様と一緒に地域に出て、いろいろな体験をしていく必要があると感じました。



朝ご飯作りの練習中

マナーについて〇×クイズで勉強しました。





「服薬指導について」

薬局長 薬剤師 直江正保

病院薬剤師の大きな業務の中に服薬指導(薬剤情報指導業務)があります。服薬指導は入院患者様に対して行う場合と、外来患者様に対して行う場合とがあります。どちらも薬物療法が適切で安全に行われるよう活動する事が目的です。外来患者様に行う場合は、お薬手帳と薬品情報紙を使って、薬局窓口での対応が主ですが、入院患者様に行う場合には薬剤師の病棟活動(チーム医療)の一環として、薬剤師が病棟に足を運んで行っています。薬剤師の専門性を生かして、主治医から発行された処方箋医薬品の効能や用法・用量、副作用、保管方法等について、患者様やご家族に説明しております。薬に対する不安は誰にでもあると思います。この不安をできるだけなくし、安心して服薬できるよう専門的に分かりやすく説明します。医薬品は指示された用法・用量を守ることによって効果を発揮します。用量が少ないと効果が出ないし、多すぎると中毒になるため、用法・用量をきちんと守って飲むことが重要です。また、患者様の年齢、体重、腎臓や肝臓の機能の状態により用法や用量の調整が必要になる場合があります。この決められた用法・用量や有効性および副作用を分かりや

く説明し、納得して服薬できるように支援しております。当院では患者様が飲みやすく、また用法を間違えないように1回分を1つの袋に入れ(一包化調剤)、袋には氏名と用法を印字しております。錠剤が何種類もあつたり、錠剤と粉薬が一緒になっているため、患者様は何の薬かが分かりづらいかもしれません。こうした時に、薬剤師が説明することで不安がなくなればと思っています。また、厚生労働省関係から病院へ医薬品に関する様々な資料が頻繁に入ってきます。薬が包装された箱と一緒に入っている添付書類には最新の内容が記載されています。使用方法や用量、適応症、副作用情報の追加、保管方法等、逐次変更されていますので、患者様やご家族に最新の情報をお伝えできるように常に注意しております。

退院後に自己判断で服薬を中断したり、間違った服薬をして治療効果を低下させないように、患者様に接して服薬指導を行うことで、心から症状の改善を願っております。これからも薬剤師一同、日々の研鑽を重ね、信頼してもらえるよう努力して参りますのでよろしくお願い致します。

三船病院医師からのメッセージ・・・



「躁うつ病について」

三船病院常勤医師 三船 義博

躁うつ病と診断されるまで平均7、8年を要するという報告があります。躁うつ病の軽躁状態は見逃されやすく、患者さんが軽躁状態で病院に自ら受診するという事はほとんどありません。気分の落ち込みや元気がなくなるなどの抑うつ状態で病院を受診され、うつ病と診断されてしまうことが多いと言われています。また躁うつ病の患者さんは(軽)躁病相が出現するまでは不可避免的にうつ病と診断されてしまうことも診断を難しくしています。軽躁状態は自覚しにくいので、以下のような状態に心当たりがあるかたは注意が必要です。うつ病と躁うつ病ではお薬も異なりますので気になる方は医療機関に相談して下さい。

- 1、これまでの人生で気分が高揚しハイテンションで怒りっぽく、
 普通の調子を超えた時期が数日以上あった
- 2、あまり寝なくても平気だった
- 3、いつもより自信があった
- 4、いつもよりよく喋った
- 5、いろいろな考えが次々に思いついた
- 6、次々に関心や興味が移った
- 7、買い物、賭け事、投資、異性との交際が多くなった



三愛会 トピックス

★三船病院クリスマス会

昨年12月24日(火)に三船病院クリスマス会を開催しました。ゲストにオカリナ & ヴォーカルjamのお二人をお招きし、優しい歌声や音色に参加された皆様はうっとりされていました。クリスマス会恒例のバザーも大変好評で、皆様ケーキを食べながらクリスマス気分を満喫することができました。



三船病院 委員会活動紹介

「 院内感染対策委員会 」

委員長 院長 三船 和史

すべての医療機関において院内感染対策の体制の整備が義務づけられており、具体的には、①院内感染対策のための指針の策定、②院内感染対策委員会の開催、③職員に対する院内感染対策のための研修の実施、④院内感染の発生動向監視と改善のための方策の実施などの活動を実施しています。院内感染症はいくつものありますが、近年われわれが特に悩まされ、注意しなければいけないのは、インフルエンザと感染性胃腸炎です。いずれもその疾患で死亡することはありませんが、高齢者の場合、肺炎などの合併症で死亡することが時にあります。両者に共通するのは、感染力が強く、院内で発生した場合、その病棟に感染が広がっていく可能性があります。特にノロウイルスによる感染性胃腸炎の場合、感染者のウイルス排出期間が長いので、長期間にわたって感染拡大の予防策を講じなければなり

ません。そうすると病棟の機能は麻痺し、入院患者様には移動禁止などの措置で大変ご迷惑をおかけすることになります。ノロウイルスによる感染性胃腸炎は昔からあったと思われませんが、原因物質がノロウイルスであると同定されたのは1997年であり、比較的歴史が新しいといえましょう。特に冬場に全国各地で大流行しており、老人施設や医療機関において問題化しています。当院でも感染性胃腸炎の院内感染症が毎年のように発生しており、法的義務はありませんが、保健所に報告し、技術的支援や指導を受けています。院内感染が発生した場合、感染経路を遮断するために入院患者様の移動制限をする必要性がありますが、患者様の人権を配慮することが必要であり、大きな課題でもあります。



《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・クリニカルパス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第1水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)

【介護老人保健施設 福寿荘】

「介護老人保健施設における看護職員の職務について」

准看護師 草薙 賢一

介護老人保健施設では、QOLの向上を図ることが重要であり、家庭復帰を目指すことを目標としています。それに向けて、多職種と協働で看護・介護・機能訓練を中心としたサービスを提供しています。

看護職員の職務は、介護職と役割分担を明確にし、協力してケアを行うことです。利用者のバイタルサイン・チェックで状態を把握し、観察を密に行い異常の早期発見に努めています。そこで、常に多職種と連絡をとり利用者に関する情報と必要な管理業務を行っています。また、食事(配膳・下膳・食事介助・食事量の記入)・排泄(オムツ交換・トイレ誘導・介助)・入浴・離床・移動や療養室内の清潔の保持・生活全般のケアをしています。さらには、ケアプラン(サービス担当者会議出席・実施と記録)、行事・レクの実施、多職種と協力して家族への相談・指導も行っています。

利用者の中には免疫力が低下した方や糖尿病や高血圧症などの合併症のある方も多いため、感染症対策にも取り組んでいます。インフルエンザ・肺炎球菌ワクチンなどの予防接種・うがい・手洗いの励行・環境整備などに力を入れ、施設内の利用者はもちろん、ご家族、職員共に、感染症にかからないように注意しています。

私たちは利用者中心のケアを一番大切にしています。そのため、利用者が毎日明るく療養生活が送れるように日々努力していきます。



【三愛会コミュニティケアセンター】

「花園荘生活訓練事業の終了にあたって」

多機能型事業所花園荘 施設長 山田 智子

平成9年より運営されてきた花園荘生活訓練事業は、今年度末を持ってその役目を終了します。「迎え入れて送り出す」とおり、精神疾患や精神障害ゆえに長期入院されていた方を、一端の退院先として受け入れ、その数年後にそれぞれの方が目指す地域生活へと送り出していき、まさに入所型中間施設としてその役割を全うしてきました。開所以来17年間に花園荘を経由した利用者は104名にのぼります。

花園荘では「生活訓練」を「生活練習」「体験」「準備」と捉え、退所後の地域生活の確立と安定を目指す地域移行支援に重点を置いてきました。入所型生活訓練事業には次のような意義があったと思います。①つ目は、入所生活の中で人との繋がりができることです。花園荘での暮らしの中で自然とできた友人、知人、支援者らとの交流は、退所後も地域社会で孤立することなく他者と支え合いながら生きていく基盤となるからです。②つ目は、その方が退所後生活していくために必要なサポートは何か、今は困難でも取り組めば解決できることは何かなど、365日のかかわりの中でじっくりと力や状況をアセスメントすることです。③つ目は、その方の退所後の地域生活を想定しながら、どのような支援内容や方法がその方に合っているのか、ご本人と支援者で施行を繰り返しながら発見していくことです。④つ目は、花園荘で練習し準備した自分なりの生活スタイルを退所後の生活に生かすと共に、花園荘で行っていた支援を地域支援者へとバトンタッチしていくことです。ご本人は花園荘で自分の生活に直面し、失敗も成功も経験しながら徐々に自分なりの生活ペースを掴み、生活への覚悟もゆっくり積み重ねていきました。又ご家族からの学びも多く、地域移行は本人、家族、支援者のタッグがあつてようやく実現していったように思います。

花園荘生活訓練事業所はまもなく終了しますが、その目的と意義は通過型グループホーム花園荘として継承される予定です。今後とも変らぬご愛顧の程を宜しくお願い致します。

《三船病院からのお知らせ》

【行事予定】

○三船病院家族会

日時：5月18日

場所：三船病院

内容：演芸会、バザー等



《編集後記》

寒い日が続いておりますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

1面でもふれましたように、現在三船病院は退院支援に力を入れて取り組んでおります。2014年4月には大規模なダウンサイジングを行う予定です。長期間の入院生活から地域へ退院される患者様、そのご家族様の不安が少しでも軽減し、スムーズに地域移行できるようなサポートを行えるよう、日々努力していきたいと思っております。(三船病院相談室PSW)